

【第118回生涯教育講座】

よくある病気！ でも困ることが多い病気！！

— 便秘と下痢の診断と治療 —

きの した よし かず
木 下 芳 一

キーワード：便通，排便，下剤，下痢止め

要 旨

便秘と下痢は便通異常とまとめられ、日常の診療で毎日のように遭遇する極めて発症率の高い病態である。便通異常の原因の大部分は消化管の機能の変調によって発症する機能性疾患であり、対症的な治療を行うだけで症状が消失することが多い。ところが、一部の患者では腸管の腫瘍や炎症などの器質的な疾患や内分泌疾患のような全身疾患が原因で便通異常を発症している例がある。また、思わぬ薬剤の投薬が下痢や便秘の原因となることがあるため、投薬内容に十分に気を付けることが重要である。器質的な疾患や全身性疾患が原因で便通異常が発症している例や薬剤が原因となっている例を見落とさないように注意をするとともに、新しい様々な薬剤、治療法が開発されつつあるので、一般的な治療に抵抗する患者は専門医に相談することが重要であると考えられる。

はじめに

ヒトが食べ物を食べるとその内容によってばらつきはあるが、食道を5秒程度で通過し、胃を2時間程度で通過し、小腸内を5-6時間かけて進行し、大腸内を1-2日かけて通過した後に糞便として排出される。便は70-80%を水分が占めており固形分である20-30%の3分の1は腸内細菌かその死骸、3分の1は消化管の脱落上皮、そして残りの3分の1は食物残渣である。排便時に出

るガスは窒素に加えて腸内細菌が産生した水素、メタンなどの無臭のガスや、硫化水素やmethanethiol dimethyl sulphideなどの臭気性のガスが混入したものである。

糞便やガスを適切に体外に排出することができれば問題はないが、排出するべき糞便を快適に十分量体外に定期的に排出できない状態を便秘と呼んでいる。便秘の場合には糞便中の水分量が減少し硬便となっていることが多い。反対に糞便中の水分量が増加した状態を下痢と呼んでおり、下痢の定義に排便回数は含めないことが多いが、一般的には排便回数も増加することが多い。便秘と下痢は発症率が高い疾患で、消化管の機能障害が原

Yoshikazu KINOSHITA

島根大学内科学講座第二

連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1

島根大学内科学講座第二